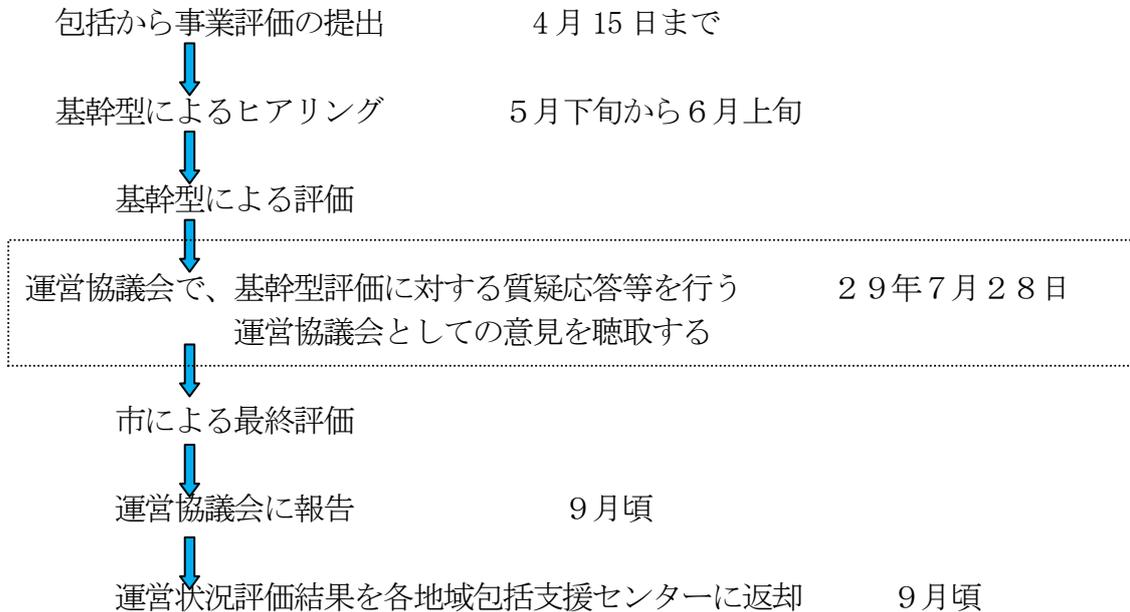


平成28年度地域包括支援センター運営状況評価の総括について

*地域包括支援センターについて以下「包括」という。

1 運営状況評価までの流れ



2 運営状況評価の総括について

(1) 基幹型包括による評価方法

(資料4-1、4-2-①~⑫、参考資料を参照してください)

基幹型包括で、以下の資料を基に、ヒアリングの際に確認すべきことを整理した後、基幹型包括職員3~4人で、各包括に出向き、ヒアリング(1時間程度)を実施しました。また、評価については、基幹型包括職員4人がそれぞれ、評点を持ち寄り、その根拠等の意見交換を行った後、基幹型包括としての評価を行いました。

基幹型包括が評価をする際に参考とした資料

- ・各包括の28年度事業計画
- ・各包括から提出された自己評価
- ・28年度の各包括相談受付状況報告
- ・介護予防ケアプラン委託先実績
- ・居宅介護支援事業所紹介先実績
- ・27年度運営状況評価
- ・市に寄せられている苦情等

(2) 基幹型包括による評価の総括

包括としての自己評価は、一番低い湘北地区包括あかねが3.38点、一番高い松浪地区包括さざなみが4点、平均は3.76点でした。それに対して、基幹型包括としての評価は、一番低い鶴嶺西地区包括みどりが3.63点、一番高い海岸地区包括あい及び南湖地区包括れんげ並びに湘南地区包括すみれが4点、平均は3.88点でした。

茅ヶ崎地区包括ゆず、鶴嶺東地区包括さくらについては、自己評価と基幹型評価の内容が同じ結果と

なり、一方、鶴嶺西地区包括みどり、松浪地区包括さざなみ、小出地区包括わかばについては、包括の自己評価よりも基幹型評価が低くなっています。それ以外の包括については、包括の自己評価よりも基幹型包括の評価が高くなりました。

すべての包括で、茅ヶ崎市第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画や地域包括支援センター事業運営方針・実施方針等に沿って、事業計画を立て、事業を実施していました。また、これから先の高齢者の状況（後期高齢者が急激に増えること、認知症や独居高齢者の増加が見込まれること等）を踏まえ、地域ケア会議等で、地域の方々とのネットワークの構築や高齢者の見守り等について意見交換を行っています。その結果、地域の方々とは包括との関係性のみならず関係者同士のネットワークも強まっている傾向にあり、包括としての取り組みに成果がみられているものと判断しています。また、いずれの包括においても各職種の専門性を大切にしながら、お互いに意見交換を行い、効果的な事業運営に努めています。

介護予防プラン委託先や居宅介護支援事業所の紹介先等について、紹介した先とその理由を明確にしている包括が多く、市からの委託を受けている公的な機関であることを認識しながら、公正中立な事業運営に努めていることを確認しました。

緊急時の連絡網等については、職員の交代等を反映した連絡網となっていない包括が若干ありましたが、ほとんどの包括が緊急時の対応についてのフローチャートを準備するなどの対策をとっていることを確認しました。

苦情・要望に対する方針について、包括への苦情等のみならず介護保険制度に関する苦情やヒアリハットについても記録を残すなど、苦情・要望等に対して意識が高い包括もありました。

以上の結果、すべての包括において、求められる評価基準を満たし、事業を円滑に実施していました。また、その結果、一定の成果がでているものと考えています。